

特別講演

主催 埼玉医科大学 総合医療センター 麻酔科,
後援 埼玉医科大学 医学教育センター 卒後教育委員会
平成21年11月17日 於 総合医療センター 第1会議室

緩和ケアと鍼

高橋 徳

(ウィスコンシン医科大学 外科学教室)

鍼灸, 漢方薬, 指圧, 気功, マッサージ, ヨガ, カイロプラクティックなど, 西洋医学の範疇に属さない療法(代替医療)を総称して米国では Complementary and Alternative Medicine (CAM) と呼んでいる。これらの治療法が, 最近アメリカ人に興味をもたれてきており, 成人の半分以上が, 少なくとも一度はCAMの治療を受けたことがあるといわれている。1998年に National Institute of Health (NIH) がCAM支援の目的で National Center for Complementary and Alternative Medicine (NCCAM) という部署を設立し, 全米の施設で種々のCAMの臨床研究および基礎研究が進行している。

高橋先生らのグループは, 鍼の制吐作用の機序についての基礎研究を報告した。犬にバソプレッシンを投与すると, 消化管の逆蠕動がおこり, 頻回の嘔吐が見られた。このバソプレッシンの催吐作用は, 内関(手首)への鍼刺激で顕著に抑制された。内関への鍼刺激によ

る制吐作用は, ナロキサンの投与により消失したことより, 鍼刺激で中枢から遊離されたオピオイドがバソプレッシンで誘発される嘔吐中枢の活動を抑制する可能性が考えられた (Am J Physiol 2005;288:R401-8)。動物実験で明らかになった点を, 米国での研修会で発表され, 実際に人に応用している点も興味深かった。以前より足三里(膝)や合谷(手背)の鍼刺激が, 鎮痛作用を示すことが報告されている。鍼治療の有する制吐作用や鎮痛作用は, 緩和ケアの補助療法として, 有用と考えられる。

聴衆は緩和ケアチームのメンバーの医師, 看護師, 薬剤師, 東洋医学の鍼灸師等が多数聴講した。講演後の質疑応答でも活発な意見が交換された。特に, 内関への鍼刺激と制吐作用は臨床的に興味深いポイントであった。

(文責 宮尾秀樹)